会　議　録

会等の名称	令和８年度　第１回瑞穂市総合教育会議
開催日時	令和８年８月２４日（月曜日） 午後１時３０分から午後２時４５分
開催場所	瑞穂市役所　穂積庁舎　大会議室
議題	・講演　「現代の子どもたちの実態と求められる教育的支援」 ・その他
出席者 欠席者	出席者　６名 市長　森和之、教育長　服部照、教育長職務代理者　大平髙司、教育委員　伊藤清美、教育委員　小倉真治、教育委員　曽我部樹里 欠席委員　０名
招聘者	岐阜県スクールカウンセラー・スーパーバイザー　臨床心理士・公認心理師　川原聡　氏
説明のため出席した者の職・氏名	教育委員会事務局長　磯部基宏、教育総務課長　宇野伸二、学校教育課長　川田英樹、幼児教育課長　野口智子、生涯学習課長　広瀬正人、給食センター課長　松野光広
職務のため出席した者の職・氏名	企画部長　矢野隆博、総合政策課長　木村絵里子、総合政策課主幹　宇野佳一、教育総務課主幹　臼井英俊
公開・非公開の区分 （非公開理由）	公　　開　　・　　非　公　開
傍聴人数	２人
審議の概要	開会 【総合政策課長】 　本会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第６項の規定により原則公開とする。傍聴希望者の２名について傍聴を認めるか出席者に確認した。 （全員同意） 　瑞穂市総合教育会議運営要綱第７条の規定に基づき議事録には出席者の氏名等が公表されることを確認した。 （傍聴希望者入場）

【市長】

とても暑い日が続く中、教育委員の皆様、そして川原先生にお越しをいただきましてありがとうございます。今、暑いと申し上げましたが、今年の夏は暑いだけではないと思っています。それは、一つは、７月２８日に熊本県で発生した震度７の大地震で、１０年前にも震度７の地震があり、復興途中の方がおられる中で再び震災に遭われたということで、とても心苦しく思っておりますし、１日も早い復旧復興を願っております。昨日より市役所から１名が熊本の方へ避難所支援や健康管理などの支援に１週間行っており、暑い中ということで、とても心配するところです。もう一つ大きな災害がありました。８月１３日から１４日にかけて千葉県で線状降水帯が発生し、千葉市では２４時間の間に、３６０ミリを超えるような豪雨災害がありました。冠水した道路で多くの自動車が動かなくなり、どのように撤去するかが課題になりました。猛暑、地震そして集中豪雨、私たちを取り巻く環境は本当に大きく変わってきており、確実に、しっかり対策をしていかなければならないと思っています。

毎年６月に全国市長会があり、その中で教育フォーラムという催しがあり、尾木ママの愛称で有名な法政大学の尾木直樹先生のお話を聞きました。先生の話はこれまでに２回お話を聞いたことがあるのですが、お話の中でまず一つ言われたのが、大人たちが子どもをどうやってリスペクトしていくのか、ということです。子どもたちの考えを尊重して、子どもたちが私たち行政と一緒にパートナーシップ体制を作っていくことを先生は目指していらっしゃいます。私も同じ考えを持っており、私が始めたのがスクールミーティングや１日市長です。二つ目は、ウェルビーイングは自己肯定感とかなり深く関わりがあるということで、市ではすでにウェルビーイングな保育所・幼稚園・小学校・中学校を掲げていますが、この自己肯定感というものをどう児童生徒に示していけばよいか、また、自身の価値を認めるということを、子どもたちは理解できるのか、と感じました。市でも幸せの黄色いポストを設置して、また明日も通いたくなるような保育所・幼稚園・学校づくりに取り組んでもらっています。教育長がウェルビーイングな保育所・幼稚園・小学校・中学校をどのように校長先生に示し、どのような自己肯定感を高める仕組みを作ってもらっているのかを、次の総合教育会議では聞きたいと思っており、その中でも幸せの黄色いポストがどれだけ学校の中で根づいて、どんな成果があったのか、ということも次の総合教育会議では聞きたいと思っています。三つ目に言われたのは、子どもたちの新しい時代、子どもの権利、こどもまんなか社会の構築、ということで市ではこどもまんなか応援サポーター宣言を行っています。加えて尾木先生は、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利についてもお話しされていました。子どもの権利に関わる部分は、市は他の自治体から遅れてきているので、これも教育委員会が主導となって子どもたちの意見を聞きながら進めてもらいたいと思っています。

話は変わりまして、保育所・幼稚園・小学校・中学校への保護者からの苦情や提案などの窓口を全て教育委員会に一本化してはどうか、と先日ある有識者の方から提案を受けました。それはすごく難しく厳しいことだと思いましたが、初期の対応についてはいいのかもしれない、と答えました。直接、学校が対応するのではなく、教育委員会を経由して保護者の方の話をきいてもらえたら、と思いました。ただ、教育委員会へ色々な苦情や提案をされる

	方はすでにいらっしゃると思います。最終的な形としては、学校などに相談できないことは、教育委員会の担当部署に相談してください、ということになるのではないかと思っています。 　次に、全国学力・学習状況調査の結果ですが、岐阜県は、小学校では全国平均を下回り、中学校では全国平均を上回っていると報道されました。スマホやＳＮＳを長時間見ていると、正答率が低い傾向があるとのことでした。一方で、タブレットを学習で活用すると正答率が高いという、相反する傾向もあるとのことで、一度、市の児童生徒は、どのぐらいの時間ＳＮＳやスマホなどを使っているのか実態調査をしていただくのが良いのではないかと思います。 　また、最近、県知事に会う機会があり、伊豆市や北方町における異学年集団での学び合いについてお話がありましたので、次の総合会議の中で何か説明をお願いしたいと思います。 　本日は、今、子どもたちがどのような実態にあるのかを知りたいと思いまして、川原先生をお招きして講演いただくことになりましたので、よろしくお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――― **講演「現代の子どもたちの実態と求められる教育的支援」　川原聡　氏** **【総合政策課長】** **　招聘者の川原氏の紹介を行った。** **【川原氏】** **　「現代の子どもたちの実態と求められる教育的支援」と題した講演を行った。** **【総合政策課長】** **　出席者に質問や感想があるか確認した。** **【伊藤委員】** 　今日はありがとうございます。今日お聞きしたような課題は、正直なところ、気持ちがちょっと沈むところがありますが、大人として直視し、自分なら何ができるかを考えなければいけないと思いました。私は普段、小さな子どもたちと生活していますので、どちらかというと子どもの課題や問題というよりは、その子の良さからその子を理解することに努めています。でもその子たちの中にも将来、本日お話のあった不登校などに直面する子が必ず出てくると思います。その時に、生きる拠り所があることを少しでも分かってもらえるよう、小さな子どもたちと、毎日を大切にして過ごしていかなければいけないと思いながらお話を聞かせていただきました。 **【大平委員】** 　私は自治会長を務めていたこともあり、本日お話のあったサードプレイスということに関わってきました。以前は子ども会やラジオ体操が活発に行われ、子どもたちのサードプレイスとしての役割を果たしてきたと思いますが、コロナ禍以降こういった活動が減ってきています。このような中どのよ

うなサードプレイスの在り方があるのか具体例を教えていただけますか。

【川原氏】

現在、県内各地でコミュニティスクールという地域の人たちと子どもたちが関わる取組が増えてきています。子ども食堂もサードプレイスの一つだと思います。

各自ができることを少しずつやっていくということと、大人も実際に来てもらってサードプレイスという場はあった方がいいと必要性を実感してもらい、大人の意識を変えていくことが必要だと思います。

【小倉委員】

私は子ども時代、担任の先生が嫌で、学校生活に対しやる気が出ませんでした。ですから本日のお話をお聞きして、先生は不登校の理由になっていないのだなと思いました。

今、発達障がいというとＡＳＤ、ＳＬＤ、ＡＤＨＤと名前が付いていますが、医者は、診断を求められて症状名があって、そちらに触れていれば診断を付けてしまいます。診断が付いてしまうとそれが免罪符のようになってしまい、この子は発達障がいだから特別支援学級に入れないといけない、という社会の流れが出来上がりつつあるのではないかと恐れています。

昔は同じ教室の中で、あの子は変わっているね、という子がたくさんいましたが、今、そういった子たちはエリミネートされているのではないかと心配しています。学校としても難しい面はあるかもしれませんが、できるだけエリミネートしない形で進めなければいけないと思いました。

【川原氏】

発達障がいは、病名ではなく特性です。発達障がいが原因となりケンカしてしまったり、物忘れが多かったりとか支障をきたした場合は対策が必要となりますが発達障がいがあること自体は問題ではありません。

発達障がいを持つお子さんの保護者の方にカウンセリングする際も、保護者の方が第一声で「うちの子はＡＤＨＤです」とおっしゃることがありますが、まずはどのような子どもなのかを聞かせてもらい、どのような支障があるのかを確認してから対策を考えましょう、と話しています。インターネットに情報が氾濫しており、保護者の方も余裕が無いことから簡単に分類したがる傾向にあるのではないでしょうか。

【小倉委員】

強い不安をお持ちの保護者の方が多いと思います。

【曽我部委員】

この前、子どもとファーストフード店に行きました。久しぶりに訪れたこともあり、カウンターで注文するものだと思っていましたが、タッチパネルでの注文方式になっていました。私は使い方が分からなかったのですが、子どもは簡単に操作していました。また、昔はファーストフード店ではスマイル一つ、という注文ができたよ、という話を子どもにしたら、この時代にそのようなことを強要することはよくないと言われてしまい、親の世代と子どもの世代では時代や考え方が大きく変化しているなと感じました。今日のお話の中で通訳のお話がありましたが、これだけ親と子どもで考え方が違うと

通訳が必要になるなと思いました。

【川原氏】
　今は、様々なオンデマンドサービスが広まっており、好きなものを選べるようになっていますが、小中学校の授業は選ぶことができません。給食も選べるようになっていませんが、日本の給食は世界から絶賛されています。何でも選べる世の中で選べない厳しさを学ぶ場を確保するということも家庭では分かってほしいと思います。

【服部教育長】
　学校現場や教育委員会でも不登校対策を考えることが多いのですが、今日のお話を聞いて、子どもにどう関わるのかを大人が面倒くさがらず、学校で何ができるのか、地域社会では何ができるのか、ということにも目を向けてやれることを考えていく必要があるということを改めて思いました。

【市長】
　不登校の中で、生活リズムの不調をどのようにすれば変えていけるのかと考えるときに、今日のお話を聞いて、語り合うことも一つかなと思いました。私たち大人も夢や、やりたいことを語り、子どもたちも行政にやってもらいたいことを語るということを、今、市では少しずつ進めていますが、そういった希望みたいなものを子どもたちが色々な場で発表したりできることがいいのではないかと思いました。
　今日は、保育所長や幼稚園長と一緒にお話を聞かせていただきましたが、聞いて感じた気持ちや内容をそれぞれがどこまで維持できるのかが一番大切ではないかと思います。本日はありがとうございました。

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

その他　瑞穂市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

【服部教育長】
　資料「瑞穂市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について紹介を行った。

（出席者からの意見無し）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

【総合政策課長】
　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第７項及び瑞穂市総合教育会議運営要綱第７条の規定により、市長が議事録を作成することに関し、内容については、市長に一任してよいか確認した。

（全員同意）

【総合政策課長】

	閉会のあいさつ 閉会
事務局 (担当課)	瑞穂市　企画部　総合政策課 TEL：058-327-4128　FAX：058-327-4103 e-mail：sougou@city.mizuho.lg.jp